2017年12月2日(土曜日)の東京新聞に 「世界を救うパンの缶詰」が紹介されました!

19 地域の情報振

持とうとする会社の姿勢を った商品に最後まで責任を

クト」と名付け、宅配業者

困っている人のためにでき

くのではなく社会のため、

|電03

(6261) 669

問い合わせは、ほるぷ出版 話」は千四百円(税別)

不思議」と笑いながら語る 本になっていなかったのが

お金を得るためだけに働

にのだ。「救缶鳥プロジェ

2017年(平成29年) 12月2日(土曜日)

源

第

亲斤

区)から刊行された。阪神・淡路大震災(一九九五

バンの缶詰」となって、ほるぷ出版(東京都千代田 彦社長(☆型)=の活躍ぶりが、児童書「世界を救う 木県那須塩原市の会社「パン・アキモト」=秋元義 ンの缶詰で災害地に国際的な支援を続けている栃 しっとりとして軟らかいまま長期保存がきくパ

年)を契機に生まれたパンの缶詰が世界中に広ま

っていく過程を丁寧に追っている。

(小寺勝美)

居引

呼び『ちゃんと育てなけれ ば」と話します。自分のつく の缶詰を五人目の子どもと する企画を思い立った。 り、児童向けに仕事を紹介 の商品開発と社会貢献を知 子さんはたまたまアキモト えて話す。「秋元社長はパン 多い」と自らの経験を踏ま を肯定的に捉えられなくて に親の仕事を知らず、仕事 ノリーターになってる人も 会社員の家庭の子は意外 引で届ける方法を考えた。 賞味期限の近づいた缶詰は 期限一年前にユーザーに声 する人々に届けることにし 海外で今すぐ食糧を必要と る代わりに新しい商品を割 限後の処分に費用がかかる をかけ、古い缶詰を回収す のが問題だ。秋元社長は、 しているが、三年の賞味期

同出版の編集者、 子どもたちに伝えたくて 校が災害時の備蓄用に購入 や多くの企業や自治体、学 パンの缶詰は現在、個

被災地の困っている人へ

元社長

環境大臣賞の 「グッドライ

最優秀賞に選ばれ、

少しでも社会のためにと 菅さんは子どもたちに 動に贈られる

れないものがありました」

る人、社会のために」と語っ 表彰される のまま書きました。今まで まで取材した著者の菅聖子 やシステムの細かいところ ていた創業者で父親の故健 さんは「初めての驚きをそ 大所高所に立ち、困ってい 一さんの言葉だ。製作工程 秋元社長を動かしたのは

ろうか。 子どもたちはどう感じるだ 題となっている中、 でさまざまな不正をして問 送る。大手企業が製造過程 その先に誰かの笑顔が待っ や活動に生かしていけば、 ・アキモト」の企業風土を てますよ」とメッセージを いう気持ちを忘れず、仕事 「世界を救うパンの 「パン

ロジェクトは ルートをつくった。このプ と提携して備蓄を回収する によい暮らし 」を支える活 「環境と社会 事をしていて他には感じら 、従業員も胸を張って仕

ることを考える。そんな秋 元社長の姿勢にひかれる

さん圏と著者の管聖子さん=東京都千代田区で 世界を救うパンの缶詰」を企画した関谷由子

アキモト 1947年創業、 年70周年を迎えた。95年の阪神・淡路大震災で被災地支援のため自社の を届けたものの保存が利かず、半分 以上が無駄になったという。乾パン お年寄りや小さい子どもには食べに 軟らかくて保存の利くパンがほ う要望を聞き、100回以上の試作 てパンの缶詰を開発 栃木県那須塩原市の本社と沖縄県 の缶詰工場があり、アメリカや中 台湾で特許を持っている。 国、 ダナンでもパンを製造。

また、環境省主催の「第5回グッドライフアワード」について弊社の救缶鳥プロジェクトが 環境大臣賞最優秀賞に選ばれ、その旨も掲載して頂きました!